



平成21年度「キャリア教育指導者養成」研修 2・3

2009年7月29日

キャリア教育を担う教員の資質・能力の向上

キャリアカウンセリングの意義と位置づけ

キャリアカウンセリングの基礎

追手門学院大学 心理学部教授
キャリア開発部長
三川 俊樹

キャリアとのかかわり 自己紹介に代えて

(1) 進路指導(キャリア・ガイダンス)をやれ！

- ・進路指導は**カウンセリング**じゃないか！
- ・すべての不適応の背景には、進路の問題がある
- ・**21世紀はキャリアの時代**になる

(2) 大学生のキャリア意識に向き合って

- ・「先生、僕はどんな仕事に向いているのでしょうか？」
- ・「仕事はきびしいから、私にはフリーターぐらいしかできません」

進路指導・キャリア教育にかかわって

- (1) **進路指導**を充実させてください！
 - ・「研修より、1件でも求人を！」
 - ・「進路は、生徒の自主性に任せています！」

- (2) **キャリア教育**を推進してください！
 - ・「ほとんどの生徒は、進学希望ですから・・・」
 - ・「職業体験なら、何年も前からやっています！」

進路指導の周辺

- 進学指導（受験指導）
- 就職指導（就職支援）
- 職場体験 ▪ インターンシップ（体験的活動）
- 職業教育 知識・技能の育成
（専門的・実践的教育）
- キャリア教育 勤労観・職業観の育成
（基礎的・汎用的教育）

進路指導と進路相談

学習指導要領に位置づけられた進路指導

- 1 進路指導の6領域（ガイダンス & カウンセリング）
自己理解、進路理解、啓発的経験、
進路相談、選択決定の援助、追指導
- 2 キャリア教育とキャリアカウンセリング

キャリア教育が求められる背景

- ① 少子・高齢社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化
- ② 就職・就業をめぐる環境の変化（日本型雇用慣行の崩壊）
- ③ 若者の勤労観・職業観、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質をめぐる課題
- ④ 精神的・社会的自立が遅れ、人間関係をうまく築くことができない、自分で意思決定ができない、自己肯定感を持ってない、将来に希望を持つことができない、進路を選ぼうとしないなど、子どもたちの生活・意識の変容
- ⑤ 高学歴社会におけるモラトリアム傾向が強くなり、進学も就職もしなかったり、進路意識や目的意識が希薄なまま「とりあえず」進学したりする若者の増加

キャリアとは何か

1 キャリア

人生、生き方、生きるということ

2 生涯発達における多様な役割の統合とその連鎖 (D・スーパー)

3 個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や 役割の連鎖及びその過程における自己と働くこと との関係付けや価値付けの累積（文部科学省）

キャリア教育とは 1

- (1) キャリア教育とは（初等・中等教育）
社会的自立に向けて、児童生徒一人一人の**キャリア発達**を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育
- (2) **キャリア発達**を支援するプログラム
発達段階に沿った系統性（計画性・継続性）
- (3) 個別にキャリア発達を支援するかかわり
キャリアカウンセリング（適切なコミュニケーション）

キャリア教育とは 2 キャリア発達

- 1 キャリア教育は、一人一人のキャリア発達や個としての自立を促す視点から、従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革していくための理念と方向性を示すもの
- 2 キャリア教育は、キャリアが子どもたちの発達段階やその発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくことを踏まえ、子どもたちの全人的な成長・発達を促す視点に立った取組を積極的に進めること

キャリア教育とは 3 基本的な考え方

- 1 学校の**教育活動全体**を通じて
- 2 児童・生徒の**発達段階**に応じた
- 3 小学校段階から高等学校段階までの
- 4 **系統的・組織的**なキャリア教育の推進が必要

そのための条件整備として

- 1 キャリア教育を推進するための学校内の組織・体制づくり
- 2 **教員の資質の向上と専門的能力を有する教員の養成**
- 3 学校外の教育資源活用にかかるシステムづくり
- 4 保護者との連携の推進
- 5 関係機関等との連携と社会全体の理解の促進

キャリア発達－4領域・8能力

文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」（平成16年1月28日）

(1) 人間関係形成能力

他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。

(2) 情報活用能力

学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。

(3) 将来設計能力

夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。

(4) 意思決定能力

自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行なうとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。

キャリアカウンセリングの定義

文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」

- ・**学校におけるキャリアカウンセリング**は、子どもたち一人一人の生き方や進路、教科・科目等の選択に関する悩みや迷いなどを受け止め、自己の可能性や適性についての自覚を深めさせたり、適切な情報を提供したりしながら、子どもたちが自らの意志と責任で進路を選択することができるようにするための、**個別またはグループ別に行う指導援助**である。
- ・キャリア発達を支援するためには、個別の指導・援助を適切に行うことが大切であり、特に、中学校、高等学校の段階では、**一人一人に対するきめ細かな指導・援助を行うキャリアカウンセリング**の充実は極めて重要である。

キャリアカウンセリングの場面

- 1 放課後の教室で
「先生、合格できるかなあ……………」
- 2 6年生の「道徳」の授業で
「ふーん、ほかには？」「私も、〇〇と思います」
- 3 2年生の子どもに
「好きなことも、得意なこともないの……………」
それは困ったねえ……………」

キャリア教育推進のために 1

1 児童生徒一人一人のキャリア発達への支援

- a 子どもたちのキャリア発達の的確な把握
- b キャリアカウンセリングの機会の確保と質の向上

2 教員の資質向上と専門的能力を有する教員の養成

- a すべての教員がキャリア教育の本質的理解を共有
- b すべての教員が基本的なキャリアカウンセリングを行うことができるように

キャリア教育推進のために 2

3 教員の行うキャリアカウンセリング

- a 非構造的・日常的、短時間・短期間、
主体的 vs 依存的・指示的、個別 vs 集団
- b 積極的な働きかけ
チャンス／呼び出し／出張・出前

4 5つのCoの重要性

- a 個別支援 コミュニケーション、カウンセリング
- b チーム支援 コーディネーション、コンサルテーション、コラボレーション

キャリア発達を促進する 2つのCo

- 1 コミュニケーション Communication
適切なコミュニケーションによる情報収集と理解
- 2 カウンセリング Counseling
受容と共感を基礎にした心のサポート

コミュニケーションのワーク 1

自分なりにがんばってきたんだけど、

・「試験に合格できるかなあ……」

このような子どもに、どのような言葉をかけますか？

→ ?

コミュニケーションのワーク 2 (点検)

聴く

(気をつけたいこと)

無視、無理解、無関心、聞き流し、先送り、
時期はずれ、あきらめ、など

コミュニケーションのワーク 3 (点検)

(1) (返答なし)

(2) ても、でも、だって、けど、しかし

(3) そうかなあ・・・

コミュニケーションのワーク 4 (点検)

受け止める

(気をつけたいこと)

安易な保証、気休め、気持ちの否定、
心配の先取り・先送り、泣き面に蜂、
的外れ、追い込み、正しすぎる意見、など



適切なコミュニケーションの結果

- 1 自己理解やコミュニケーションが促進される
- 2 必要な情報を収集し、有効に活用する
- 3 具体的な計画を立てて、実行しようとする
- 4 課題解決のために、選択肢を検討する